

若い時は、食事も、ヨットレースも、艇作りも簡単に出来ると思っていた。が、もうじきに出向いて、狐うどん一杯と、カキ揚げ、イカ天、サツマ天を各々ひとつづつ食べるのが大変になって、狐はよして、ぶっかけとシーフ分でOKです。10/6(日)のレースは強風のレースになった。午後2時にようやくマリナーに帰着して、おにぎりを食せた。頭から海水を浴びて、ずぶ濡れになった人は、シャワーを浴びてからの昼食になるので、さらに遅くなった。肩を強打した人、腕に擦過傷を受けた人、各々、34ftと28ftのオーナーですが、それ位で済んで良かった。レースメンバーの最高年齢者になると、レースが無事に終る様に祈る様になる。7月のレースと10月のレースと、25ノット越えの風で、一発大波が来て、ドンとやられると、頭からずぶ濡れになるが、半袖のシャツと普通のズボンで、濡れっぱなしになっている人もいて困っている。2時間余で終るレースでも、装備をきちんとし、まともな状況で中道に心配を掛けない様に、気使ってもらいたい。艇作りも、高温の日々が続くと、熱中症にならない様に、配慮して、病院の御世話にならない様にしなければならぬ。又、カ仕事の時はお金がをしない様に、又、アイデアを実行するのに、ツラと云えばカーと応じれるメンバーと作業をしないと金がする事になる。長距離海外洋を帆走する場合、トラブルにすぐ対応出来

る様に、各艇それぞれ工夫されている。フォアステイも大切な部品なので、常時点検出来る様に、ジブフーラーを取り付けられない様にしている艇もある。 シブセイルをハンクス式にすると、修理可能なので、航海を続行出来る。

ハンクスがない場合は、細い雑索を、クロマット(ラフに取り付けられたハト目)とフォアステイの距離を同じにして、固縛すれば、同型のハンクスを搭載していなくても、充分に使用可能になる。

10/6(日)のレースで、仲間のT氏に3ヶハンクスが外れて、元にもどらないので、キャビンの中から、細い雑索を30cm位持って来てもらった。如何に使用するか考えていないので、バウに行く人に渡さないで、持ったまゝでいた。早くバウに行く人に渡せーと云ったら、そのまま手渡した。座っている間に、船い結びを作って、ループにしても、簡単に力が掛けられる様にしてもらった……。1プリーフでリーフポイントを雑索で固縛するのには、港内でやっているのに忘れている。一日のセイリングが終って、ブームカバーを毎回、固縛する作業を何回も行っているが、細い雑索で応用しないと、マスターした事にならない。

うん製の30ftの〈P-II〉で、オーナー夫妻とT氏とい生と4人で勝浦へクルージングに出向いた事があった。〈P-II〉は、ユニークなアイデアを駆使して、シャクルを使用しない機装が多用されている。T氏は往復乗せてもらって、たっぷり学べたはずですが、己の体験を生かす、発想が出来ない様でした。

船作りの行程で、船を持ち上げたり、反転したり、移動する時に、力を発揮する人と、共同作業が出来ない人が判別出来る。簡単な作業なので、間違える人は、よほどオーツと作業をしているか、よほど体調が悪いかのどちらかになる。

チェーン・ブロックは細い操作用のチェーンを上下して、フックの付いた牽引チェーンを上下する簡単なメカニズムです。チェーンをダンゴ状にして、本体に食い込ませない限り、OKなのですが、……。チェーンをダンゴにして食い込む一歩手前の、事故直前のケースは何回も起った……。

23ft (7m) の時は、資金が無いので、チェーン・ブロックが買えないので、ダブル・ブロック(2重滑車)を2組を1setとして、安いロープを買って来て、テークルを活用して、船をトラックに積み込んだ。

滑車 (かつしゃ)

【block】

ブロック。プーリー (pulley) も滑車だが、ブロックは一般にケースに入った滑車。ロープを通して回転する車を持つ機装品。固定滑車は、小さい摩擦抵抗でロープを引く方向を変えるために使い、動滑車 (running block) は、力を倍増するために使う。二重、三重滑車では、さらに力を増すことができる。→どうかつしゃ

ただし、使用するブロックの破断強度を調べてから、作業する必要がある。総重量がいくつになるか、山甚かでも良いから、計算して欲しいものです。

何の為に、貴重な体験を重ね、苦労したのか、良くよく考えてみれば判明する。

『可愛い息子には、旅をさせよ……』と昔から云われているが、旅で苦労すれば、今しは判り口になれるかも知れない。

ボート・ショーへ行けば、最新の船が見学出来るが、どうして、その方式で販売する方法がメリットがあるのか深

く考えなければならない。
何故、同じ飯を喰って、同じ行動、発想にならないのか
悩んで、様々に考えてみた。

新潮文庫〈老年の品格〉
三浦朱門著の第8章 人生を成功させる笑いのEQ能力
(154頁)がある。平成25年度発行の本なので、おすすめで
す。

又、203頁に、早いは、ノーバーテストは学習内
容を十分に身につけていない人間を切り捨てるには
有効だが、問題を発見し、物事を総合し、想像し、創
造してゆく能力をテストするには向かないと思っている。
現に国際学カテストで、毎回優秀な成績を占める、シンガ
ポールとか韓国からはノーベル賞のような、独創性を必
要とする賞を受けた人はいない。

ノーベル賞の自然、
科学部門について言えば、全人類の1/5の人口を占める
中国人は、文学が米国の3名、インドから1名、パキスタン
から1名、西欧文化圏のはずの中南米3名、南アフリ
カの白人から1名。

その点、日本の大学で教育を受
けた者から15名も受賞者を出した日本はアジア、アフリ
カ、中南米を加えた中で例外的存在である、と
あります。

ノーバーテストの良い成績の人が、ヨット体験から進
んで、オーナーになったり、ロングレースやクルージングを
体験しても、ボタン(?)の掛け違いで、成功しない人に
良く出会う。IQの能力ではなく、EQ能力が大きく
関係していると思われる。 どうやら

親しく、御手紙で御教え下さっている東京のD氏
から、10/6からの御手紙が10/9に届いた。

2枚目から、『私は気楽にエッセイを……と良く使いますか』とある時、エッセイとは「試みてみること」という文言に出会い、ハッとしました。

① 自由な形式で意見・感想などを述べた散文。随筆随想

② 特定の主題について述べる試論。小論文、論説、
(デジタル大辞泉・小学館)

更にネットで調べてみると

ヨーロッパ・アメリカでは持論の発表を目的とした文章と捉えられている。自分の意見を展開し、説得し…… 略 どちらかと言うと小論文のような意味合いが強い。…… 起源は16世紀に出版されたモンテーニュの著書『エッセー』(Essais: 随想録)にあると言われている。(略) その内容は、自分自身の経験や古典の引用を元にした考察と共に、自分の内面が語られている。

とありました。と考えると、“小論文”とでも言えるような文の方が多いように思えます。私にとっては、“猫に小判”ですか。…… 『後略』とあります。

小生はネットで調べる事が出来ないのので、「エッセイ」の語源を教えてもらって、ありがたく思っている。

馬鹿のひとつ覚えで、ティンギーから12mのクルーザーまで自作して、太平洋往復横断、小笠原7回、沖縄3回と帆走してみると、己の中に確かに固ってくるものがある。

前にも記したが、高1の時、蹴上りの練習をして、夏休みの校庭でスクワットと上れた。蹴上りが出来ないと体操の評価が3以下になるとの事でした。

(体育)

ヒヨロセヨロの180cmオーバーのノッポゴは、千七の教師はこいつは、出来まいと、たかをくくった様でした。

日本の代表のマスターの石原裕次郎氏が、横浜の岡本造船所で40ft(12m)を作らせた。その後1984年の東京のSは、夜笠のW7で43ft(12.9m)のULDBを、高井理の設計で建造させた。Sは仕事で多忙なので、替りに戸から小生が出向いて、建造風景の写真撮影を行い、わからない所は、工場長に説明を受けた。進水後、

レースに乗ったクルーは、誰一人として見学をした人はいなかったと思われる。Sオーナーは鹿児島県出身の苦

労人です。電通大⇒大坂商船⇒沖電気⇒電気会社設立との体験で、43ftを建造された。60歳台前半で急逝された。Sの様子に独立して、会社を起して

ヨットを作ろうと発想した。クラブの仲間もいたが、今だに建造した話は聞かれない。

R 6 サラリーマンを止めて、会社を起し、己の夢の艇を作れた人は、そうでもない。会社を起し、成功させるだけでも簡単

10/q ではない。サラリーマンをやめて、安い艇を入手し、夢を実現しようと、相談された事があった。沖縄レースにも参加してもらい、40ft(12m)の弥葺カIIに乗ってもらって外洋を体験してもらった。入手した40ft艇の設計

者にも相談されたが、近海で御楽しみにした方が良

いとのアドバイスを受けたそうです。

あるメーカーの30ft(9m)艇で、一人で太平洋に出向く艇の整備を手助った事がある。突風に会い、ティスマストして、小名浜港(福島県)に回船に救助され助かった人もいた

.....。